



シャローム/国連 - NGO 報告 第1部

シスター キャシー・シュミットゲン
シスター アイリーン・ライリー

25年前シャロームネットワークが誕生しようとしていた時、決断が成されたと同じ時に、私がどこに居たかを思い出してお話します。私が教えていたシエラレオネの町まで、ついに戦争は到達しました。私たちは、一度戦闘から逃れましたがすべて鎮圧されたと聞いて、また戻ってきました。大急ぎで避難することになり、私たちのために働いてくれていた人々のためには何もしてあげることができませんでした。イエンジェマに私たちが戻っている間、近隣の町から、寮に残されていた9人の少女たちを連れて神父様が来られました。兵士たちが学校を占領したため、少女たちに危険が及ぶことを恐れてということだったのです。私たちは、再度大急ぎで去る計画を立てましたが、少女たちをまた残して行くことはできませんでした。

新たに攻撃が始まった時、私たちはまだそこに留まっていました。今回は主要道路が封鎖されたため、私たちは山間の裏道を通らなければなりません。1992年の総会がローマで開催されていた時、私たちは逃避行の真っ最中だったのです。ですから、こうして平和、正義と被造物の統合を目的とした使命活動を推進することは、私にとって大変深い意味を持っているのです。私自身、闘争や不正義な状況を目にし、辛い思いを共感してきました。私は、若い少女たちの目に浮かんだ恐怖を見ました。私たちは雇用している人々の世話をする義務があるのだということも悟りました。そしてまた住む家から無理やり追われ、避難民になるということがどういうことかを身をもって体験したのです。

私の物語は良い結末に終わります、なぜなら私は、共同体の家に迎えられ、世話を受けたからです。しかしながら、どこにも行く場のない人々、支えのすべのない人々の苦悩を実感させられました。私がたどり着いたカバラの修道院に一人の女性がやってきました。彼女は紛争から逃走する途中、双子の女の子を外国人の家のベランダに置き去りにしてきたというのです。この女性の話はシエラレオネの戦争では特別な事ではありませんでした。2017年の今の世界でも、残念ながら例外的なことではないのは確かです。このように歴史の時を同じくして、シャロームが誕生しました。私たちはこの間、活動を推し進めてきたすべての人々に深く感謝しています。

ロクサーヌ・シェアズ

国際シャロームコーディネーター 2007年から2015年まで

今日私たちは、2年前まで、国際シャロームコーディネーターとして8年間の任務を果たされた、シスターロクサーヌ・シャレスを讃えたいと思います。前総会以来、多くのシャローム活動が成されましたが、それはひとえにシスターロクサーヌの努力によるものです。シスターは2つの国際会議開催の調整の手助けをしてくださいました。2013年には国際会議が米国、メリーランド州のバルチモアで開催されました。もう一つは2015年ローマで開催されたシャロームセミナーです。

シスターロクサーヌは2015年のシャロームセミナー開催の後ろ盾となってくださいました。あれほどの規模の集会は、企画することでさえ不可能と思われましたが、総評議会の支持を得て開催が実現されたのです。修道会として、私たちはシスターロクサーヌに心からの感謝を表明し、賛美を捧げます。セミナーの開催のすぐあとで開かれた拡大総評議会にはロクサーヌも出席されました、そこでセミナーについての反応や評価を耳になさったことでしょう。その後いくつかの管区で、セミナーの影響を述べる際使われた表現は、シスター達はシャロームに「感染して」帰ってきた、というものでした。ありがとう、シスターロクサーヌ！

この過去5年間を通じて、支部集会がネットワークの5支部全般で開かれました。

2013年

- ガンビアのバンジュールで、アフリカ支部会
- ハンガリーのブダペストで、ヨーロッパ支部会

2014年

- 日本のおお阪で、最初のアジア/オセアニア支部会開催
- ブラジルのサンパオロで、中南米カリブ海支部会

2017年

- この5月にネパール、バンディプルで、2回目のアジア/オセアニア支部会が開催されました。

北アメリカ支部会は、毎年支部所在地を回り定例会議が開催されています。

このように、シャロームは、修道会全体の各地で、シスター達また信徒同僚たちを巻き込み続けています。

シャローム/国連 NGO と 会憲「遣わされている」17項

シャローム/国連-NGO コーディネーターとして、私たちが従事している活動は、会憲「遣わされている」に深く根差している意図に由来するものです。私たちは、とりわけ17項に鼓舞されています。私は今年、修練志願者の皆さんと3日間を一緒に過ごす機会を持ちました。シスターローズメリーから、会憲のこの項の解釈、理解の手助けをするように依頼されたのです。何度も読んでいたにもかかわらず、養成指導という役割の責任を負うことによっ

て、真剣に会憲 17 項について再考することになりました。この文節を新鮮な目で見直す必要がありました。

皆様は、テーブルの上の自国語の会憲のコピー文の中に 17 項を見つけられるでしょう。数分間じっくりお読みになり、皆さまも新鮮な目で見直して下さるようお願いいたします。よく知っているのはどの部分でしょう？ 前に気づかなかったところはどこでしょう？何を求めているのでしょうか？何を呼び掛けているのでしょうか？

[自席で約 5 分間の内省]

お考えやご意見をお話し下さる方はいられますか？

[総会参加メンバーからの応答]

ここに、志願者たちとの学習のために準備したいくつかの点を挙げます。

まず最初に、それは会憲の福音的清貧の章に位置しています。正義に関する本質的な指導提示には、奇妙な位置づけと思われるかもしれません。けれども会憲は、神に完全に心を委ねることによりおのずと生まれる全被造物を尊重する姿勢の中に、正義を求める努力への方向性を置いているということなのです。

「福音的清貧の生き方は、私たちが貧しい人々への奉仕へと向かわせる。」

今では亡くなられているシスターのお一人、シスターノリン・スラッテリが、何年も前に私に話して下さったことを思い出します。シスターは「*遣わされている*」の草稿委員会に属していられました。会憲の秘密は副詞の使い方にあるのだと教えてくださいました。ひとつの副詞が、私たちが求められている行動と在りさまに関して、どのようにという様子を説明しているというのです。

私はこの文節を熟視し、5つの副詞を見つけました。言語によって翻訳は異なるでしょうから、正確に副詞とは言えない場合もあるかもしれません。その副詞は次の表現に見られます、「*痛みを、身をもって*感じる」、「不正義の根源を取り除くように、*積極的に*活動する」、「*信念をもって*不正義に対抗する」、「*簡素に*生き」、「*労働を正しく*評価し」です。

25 年前、1992 年の総会において、平和と正義と被造物の統合のためのネットワークの必要性が表明された時、私たちの活動は、直接この項の言葉に裏付けされるものと意図されていたのだと思います。

私たちは、現在の不正義に満ちた世界の状況を、自らの*苦痛*として共感することを促されているのです。これは勅書ラウダート・シのフランシスコ教皇の言葉にも映し出されています。

「私たちのねらいは、情報の蓄積や好奇心の満足ではなく、むしろ、痛みをもってきづくこと、世界に起きていることをあえて自分自身の個人的な苦しみとすること、そしてひとりひとりがそれについてなしうることを見付け出すことです。」（ラウダート・シ 19）

会憲にもあるように、教皇フランシスコは、被造物がさまざまな状況で迫害されている世界で、その影響がいかに貧しい人々に強い打撃を及ぼしているかを自らの苦しみとして受け止めるようにと促しておられます。教皇は、こうした危機状態の根源に積極的に立ち向かう活動に取り組むよう私たちに呼びかけていられます。

2015年 シャロームセミナー

「愛は待つことができない」と「ラウダート・シ」

2015年、全修道会からシャロームコンタクトの会員が集合した、歴史的シャロームセミナーのテーマは「21世紀に、福音を生きること」でした。新しい回勅、「ラウダート・シ」が出版されたばかりの時でした。私たちのすべての活動に、回勅の言葉からのエネルギーが浸透しているように感じられました。

21世紀に向けた重要な目標を示してくれる、これ以上最良の文書は望めないと言えるものでした。また私たちにとって大変幸運なことに、トゥルクソン枢機卿は、バチカン正義と平和評議会の懸念事項を挙げられ、セミナー参加者にそれについて話して下さったのです。

「以下の事項についてです

- 人身売買と奴隷化;
- 戦闘地域における女性子供への性的虐待;
- 食物、風土の安全性の危機;
- 人類の発展の全体的危機 – 多数の人々の不安定で破滅的な生活;
- 極限状態の生活者 – 貧しく、見捨てられ、無視され、正式の社会的認証も持たず経済生活から除外された人々;
- グローバリゼーションと大規模な商業経済支配による生活分野全体への影響。」ⁱ

こうした事項のいくつかは、私たちの日常生活での経験上知っていることです。このリストに移民難民現象を付け加えねばなりません。教皇フランシスコは、美しい表現で書かれた「地球上のすべての人々へ」に向けた文書によって、こうした問題に対処するチャレンジへの道の扉を私たちの前に開けられたのです。

実際、シャロームの目標と実践を作成する上で、修道会、教会そして世界の歴史に顕著な時を記した回勅の出版という恩恵によって、私たちは大きな影響を受けることになりました。「愛は待つことができない」と「ラウダート・シ」を比較してご覧ください、その類似性に驚かれることでしょう。「愛は待つことができない」は「ラウダート・シ」から直接引用されたよう見えるかもしれません。

ラウダート・シ	愛は待つことができない
「ラウダート・シ」第5章では、和解と癒しへの道筋としての対話を奨励しています。	「愛は待つことができない」では、自分自身、他者の新たな発見そして回心、和解、と癒しへ導く生活様式として対話を実践することを呼びかけています。
「ラウダート・シ」は、203 - 208 項で、より簡素に持続可能な方法で生きることを私たちに呼びかけています。	私たちは、より簡素にまた責任を持ち持続可能なやりかたで、人々とまたすべての被造物と共に生きることを促されています。
教皇フランシスコは、「ラウダート・シ」の中で、「私たちが共に暮らす家」である地球を保護するために一致団結する証しとなるように促されています。特に、私たちはみなつながっており、皆ひとつなのだと力説しておられます。	「愛は待つことができない」は、すべてを共有することによって、引き裂かれた世界の一致の証しとなるようさらなる努力を重ねることを奨励しています。
「ラウダート・シ」は、教育と不正義の根源に取り組む必要性を強調しています。	「愛は待つことができない」は、私たちの資源と使徒職を、不正義の根本的な原因を取り除くために、すべての人々を変え、呼びかける教育にそそぐよう要請しています。
そして最後に「ラウダート・シ」は、三位一体と、秘跡と聖母マリアについての黙想で締めくくられています。	「愛は待つことができない」は、三位一体の神の愛に、私たちの在り方と成すことを土台にして、使徒的生活の観想的預言的空間をより深めてゆくことを促しています。

トゥルクソン枢機卿は、類似点について特に感嘆を込めて解説してくださいました。「皆さんの修道会は、正義と平和、被造物の統合に焦点を当てた対話と教育活動に、これからも真剣に取り組んでいかれることを確信しています。そして皆さんの言葉と活動の共鳴の響きを、教皇フランシスコの環境勅書の中に発見できることに、誇りを持ってください」。ⁱⁱ

この回勅は、過去2年半にわたりシャロームの活動全般の試金石となりました。

「愛は待つことができない」もまたシャローム活動の指針でした。この5年間を通し、シャローム国連 NGO 会報に、毎回「愛は待つことができない」についての会員の思索を連載しました。修道会全域のシスター達、信徒同僚たちは総会の呼びかけを実地に試みてきました。ニューズレター上の意見や報告は、それぞれ大胆さと希望に満ちているものです。

ここにそのいくつかを抜粋します:

- ホンデュラスでは、女性の権利についての教育を受けている女性たちは、学ぶことには遅すぎることはないという認識を得ることができました。女性たちは男性支配の社会において、自らのために立ち上がることを試みる勇気を得たのです。
- 日本では、私たちの学校の生徒たちは、津波による原子炉破壊を被った深刻な福島原発事故の後、原発再稼働の反対運動を続けている女性に会って話を聞く機会を持ちました。
- ガンビアで活動するシスター達は、女性は男性より劣る存在とみなすイスラム教文化に支配された地区に住んでいます。シスター達は、子供たちにとって母親が最初の最も重要な教師であることを悟らせ、娘たちの教育に関わるよう母親たちを勇気づけています。
- ノートルダム教育修道女会として私たちは、極限状態に見捨てられた人々に手を差し伸べよう呼び掛けられていることを、シスターアイリーンは改めて思いおこさせてくれました。持続可能な発展目標の活動への私たちの支援は、「不正義の根源を排除する」ことへの呼びかけです。
- ウィルトンのシスター達は、難民に住居を提供するようという、世界中の男女修道者たちに宛てた教皇フランシスコの呼びかけを、心に留めました。特に中東地域の難民移動のニュース報道に注目していました。「愛は待つことができない」の実践を認識し、修道会所有の家にシリア人家族を招きました。このことはシスター達を、深い対話へ促し、また貧困の根源へのよりいっそうの理解へと誘い、和解と癒しを導きました。
- 私たちはまた、「小さな家」の例も挙げます。1月に、コンゴ共和国からの難民家族を本部所有の小さな赤い家に迎え入れました。

これらはほんのわずかの例にすぎません。シャロームの5か所の支部を通じて、シスター達は「不正義の根源を取り除くために積極的に」活動しています。「信念をもって不正義に対抗する」ことができるよう、自己養成にも励んでいます、そして「より簡素に生きる」すべを模索しています。

シャローム 目標と実践

シャロームセミナーの結果として、2015年から2018年のシャロームの目標と実践課題が制定されました。文書は3部の主な課題からなっています:

1. 始めに、私たちの観想的そして預言的生活を深めていくことです。

私たちの目指すところはカリスマを反映する霊性をはぐくむことです。特に会憲17項にあるように、私たちの霊性は、平和と正義そして被造物の統合の世界のために活動していくことに、私たちを駆り立ててくれるのです。正義と平和の追求に焦点を当て活動している私たちは「ラウダート・シ」によって恩恵を受けられました。

私たちは、「ラウダート・シ」の中の総合的なエコロジー に特に注意を向けます。総合的なエコロジーの章で、教皇フランシスコは、私たちはあらゆるものとすべての人々と密接に関係しあっており、全体として統合されていると強調なさっておられます。私たちの生活、使徒職そして教育に関するあらゆる決定、政策などは、環境とそこに住む人々を考慮に入れた上で成されなければならないのです。会憲4項にあるように、私たちの使命は、イエス・キリストが「1つにする」ために遣わされたように、福音を宣べ伝えることです。教皇フランシスコは、何度も繰り返し、すべてのものは関わり合っているということを思い出させてくださいます。教育修道女会としての私たちの使命は、私たちは分離したものではない、被造物とは異なったものでもなく、虐待され卑しめられた人々の苦しみとは離れているものでもなく、虐げられた人々から遠くにいるわけでもなく、圧政者や権威者とは関わりないのではなく、世界の現実から分離してはいないということを、私たち自身が自覚し、また人々に思い出させることです。神は、イエスにおいて、世界のあらゆるものを1つにするために行動することを、私たちに望まれているのです。

私たちはまた、活動のための祈りと観想の絶対的必要性を認識しています。シャローム活動に携わるすべての人々にとって霊的充足の場として毎月一日の平和のための祈りの場が提供されることは、特にありがたいことと感謝しています。

私たちはポーランド管区のシスター達に感謝の意を表します。毎年、私たちのシャロームのパトロンである福者アントニーナを祝して、美しいノベナの祈りを捧げてくださいます。シスターアントニーナが、直面する苦難に立ち向かうためどのように日々を生きていたのかと想像するだけで衝撃を受けるように思われます。

2. 私たちの第2の課題は、シャロームネットワーク内の人々の交流関係を強化することです。

これは最大のチャレンジであると同時に最大の贈り物のひとつです。会員がフルタイムでシャロームコンタクトに携わっているのは、北米地域のみです。修道会の他の地域では、シスター達は教育などの使徒職にフルタイムに従事する傍ら、シャロームコンタクトの任務をこなしています。私たちはシャローム支部内で、また相互間で共有できる方法を探り続けています。

テクノロジーの発展は、私たちの最大の障害であった言語と時差の問題にめざましい改良をもたらしてくれました。「イエス・キリストが1つにするために遣わされたように」生きる努力を試みている私たちの活動を、世界の各地のどこからも即時に見ることができるという豊かな可能性が出てきたのです。私たちの連結をさらに強める方法を見出していくことを私たちは常に望んでいます。5月に、催し物の報道や写真が大陸間に渡って共有できるよう、支部の代表たちが発行者となってフェイスブックのページを開きました。小さな一步のスタートです。

3. 第3の課題は不正義の根源に対処する教育と行動を推進することです。

カトリック教会の社会教説は二本の足を持っていることを知っています。私たちは一本の足を慈善と苦しむ人々の世話にしっかりと据え、もう一方を不正義の要因と立ち向かうことに置いて立っているのです。

1つの例を挙げるとすれば、人身売買です。奴隷として売られる若者たちを救う試みは大変重要なことです。しかし、同時に若者達が集められ奴隷制という罠にはめられるような国々の中で、こうした事態が起こるのを防ぐために家族を援助することも重要なのです。

気候変動の影響、戦争、極貧そして少女虐待、これらすべてが関わり合っている要因なのです。誘拐招集や奴隷売買の根源を止めるための行動が何も成されなければ、若者達の補充は常に続くでしょう。教育が、こうしたサイクルを中断させる鍵となるのです。少女たちは、特に売買人が使うそそのかしの言葉に裏にある現実を見極める賢さを会得しなければなりません。私たちは、売買業者と購入する客を罰する法律を押し進め、法則が強化されるようにしなければなりません。動物の非合法売買の方が人身売買よりも罰が重いという国もあるのです。

会憲、17項は「信念をもって不正義に対抗する」ことを私たちに呼びかけています。私たちは、不正義の原因と結果について学び、この問題に対処していくために「積極的に活動する」ことを促されています。そして人身売買が移民難民の窮状と結びついている現在では、同様に根源となる地域を救援する方法を見つけることがいかに重要かを認識しています。

私たちの「共に暮らす家」である地球に起こっていることに目を向ける時、2015年に国連で批准された「持続可能な開発目標」が推進するグローバル・アジェンダが、特に参考になります。正義と平和と被造物の統合のための活動に従事しているノートルダム修道女会としての真義が、提示されている17の目標とどのように符合しているかがわかります。私たちはひとつのネットワークとして、目標をより深く学び、各国のそれぞれの会員が自国に合ったアジェンダを作り、課題達成計画を立てることを試みました。毎年7月、世界の数か国から持ち回りで、国連持続可能な開発に関するハイレベル政治フォーラム (HLPF) の会合において、目標を達した企画についての報告をします。各国のシスター達は、報告について再考し、自らの経験に基づく意見を述べるように招かれています。

最後に、国連国際デーの数々は、グローバルな問題への興味を目覚めさせ、あらゆるレベルでの教育の場として、私たちに貴重な機会を提供してくれています。世界環境デー、世界人権デーと国際平和デーの記念日は、ネットワーク全体で祝われます。その他、女子教育の日、世界エイズデー、女性の歴史の月、世界難民の日、世界人身売買反対の日などの記念日は、修道会のいくつかの地域で祝賀行事が成されます。こうした記念日は、不正義と戦う行動を押し進めると同時に、また自覚と教育を促す機会になります。

ⁱ 枢機卿トゥルクソン、「21世紀に福音を生きる: 私たちの時代の危機への教会の答え」、2015年シャロームセミナー講演

ⁱⁱ 同上